

一人で悩まないで… あなたの悩みを相談しませんか？



メンタルヘルスに関することや、ひきこもり、不登校に関すること、障がいがあることで生じている困りごとなど、幅広い相談に専門のアドバイザーが対応します。

期日▼11月10日・24日、12月8日、令和4年1月26日、2月9日、3月9日(全て水曜日)
時間▼▽午後1時30分～2時50分 ▽午後3時10分～4時30分

場所▼なごみ・総合支援センター

対象▼村内在住の方、村内で事業を営んでいる方、村内にある教育機関の関係者など

費用▼無料

その他▼▽自宅で検温し、マスクを着用の上、お越しください。▽新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止・延期となる場合があります。

申し込み・問い合わせ▼希望する日の前週の金曜日までに、電話またはメールで、障がい福祉課(なごみ・総合支援センター内) ☎287-2525 ✉syougai Fukushi@vill.tokai.ibaraki.jp)へ申し込みください。

アドバイザーの有賀絵里さん(茨城県地方自治研究センター研究員)は、障がい当事者である自身の経験を踏まえ、障がい児・者支援や権利擁護等に関する研究活動を行っているほか、メンタルケア心理士やひきこもり支援相談士等として、相談支援活動に取り組んでいます。

ふるさと歴訪
～歴史を再発見～

虚空蔵堂の句会と砂岡雁宕

宝暦元(1751)年10月12日、村松山虚空蔵堂では、一三三四方(8～12キロメートル周辺)から俳士が集まり句会が開催されていました。旧暦10月12日(新暦11月28日)は、元禄7(1694)年に亡くなった松尾芭蕉(1644～1694)の忌日です。

この日、砂岡雁宕(？～1773)が村松を訪れています。雁宕は、与謝蕪村(1716～1783)を庇護したことで知られる結城の豪商で、両者ともに、芭蕉の高弟であった宝井其角(1661～1707)の弟子である、江戸の早野巴人(1676～1742)門下の俳士でした。

村松海岸を訪れた雁宕は、古い松が広がり、住吉(大阪市)や三保(静岡市)に比しても劣らない、いつまでも眺めていたい景観であるとたたえています。虚空蔵堂の僧坊・竜光院を訪ね案内されて本堂に上がると、芭蕉忌に集う俳士たちが吟詠に興じていました。村松に止宿した雁宕は、翌日、再び竜光院に出向きます。この日13日は虚空蔵菩薩の縁日で、ご利益を求める人々で賑わう中、本堂には昨日の俳士



【村松山の芭蕉句碑】

たちが集まっていた。雁宕が「むくつけき中に愛あり枇杷の花」と詠むと、一座を統括していた僧・市中が「小はるを見せて暮る枝折戸」と七・七の脇句を添えています。初冬に、武骨な花を咲かせる枇杷に温かいまなざしを注いだ雁宕。村松の人々の印象を枇杷に重ね合わせたのでしょうか。芭蕉の継承者を自任する雁宕の俳論に、一座の人々は熱心に耳を傾けました。小春の一日は穏やかな余韻を残したまま夕暮れ時を迎え、句会はお開きとなりました。

村松山の三重塔前には芭蕉句碑(写真)があり、閑静なたたずまいに趣を添えています。芭蕉が那須野(栃木県)で詠んだ句「野を横に馬引き向けよ時鳥」が刻まれたこの碑は、寛政5(1793)年の芭蕉百回忌に建立されたと推測され、村松周辺の俳士たちの虚空蔵菩薩に対する信仰と芭蕉を追慕する心情が込められています。木陰にひっそりと建つ句碑は、この地域の芭蕉信仰の一端を示すとともに、虚空蔵堂が芭蕉を崇敬する俳士たちのネットワークの拠点になっていることを伝えています。

東海村文化財保護審議会委員

宮内 教男